



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報 第36号 2013年7月

NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容: 表紙ネパールを渡る(様々なネパールの移動手段 / 書面による総会の御礼決議事項/ 皆様絵のお願い/ 定例活動報告/
ネパールとの出会い/ ネパールで嫁として暮らしてみても/ ネパールのお祭り/ / / /

行く、来る、進む、戻る、帰る、出る、入る、ネパール民族大移動その

人や動物が様々な形態で移動する姿を写した「ネパールを移動する」は大好評。長谷川氏の作品です。
清浄な山の空気に別れを告げ、到達したのは人間がすべてを支配する喧騒の世界。



ネパール南部ジャナクプル。インドとの国境の街。朝は早い。そして夜は遅い。24時間人間の息吹を活性化
化する小道具は、パプー、パプーと - 吹き鳴らすラッパと、派手にペイントされた人力車。

書面による会報の御礼

皆様のご理解とご協力を持ちまして、総会成立とさせていただきました。

NBSA2013 年度総会は、諸事情のため、書面による略式総会となりましたが、6月15日に無事終了しました。

議題(1)～(4)は既に会員の皆様には前もって配布している通りなので、紙面では省略させていただきます。

議題(5)の詳細について、皆様のご協力をお願いいたしたく紙面を割きます。

総会で2014年3月末をもって、日本のNBSAを閉会することを了承・決議されました。

したがって、会費は今年度分まで納めて頂くこととなります。本会報に「振り込み用紙」を同封しますのでご協力おねがいします。また、閉会時に会の運営費に僅かでも残額があれば、全て現地ネパールのNBSAに寄付したいと思っています。宜しくお願い致します

皆様のお力添えが必要です

会 員 各 位 ご挨拶

ネパールの視覚障害者を支える会 Nepal Blind Support Association

会 長 渥美 資子

雨季に入り、蒸し暑い日々が続きますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年4月からネパールの視覚障害者を支える会の日本事務局を、千葉県の地域活動センター ポコアポコへお願いいたしましたが、ネパールの諸物価の急騰などにより、運営が難しくなりました。

また、日本の皆様方におかれましては、被災地への募金などで手一杯、海外支援までとても無理、との声も聞かれます。本来、社会的弱者へのサービスなど自国の政府機関が、責任を持って行うべき事業と思いますが、ネパールのような途上国におきましては、いまだに行政が野放しの状態です。断腸の思いですが、いったん2013年度を持ちまして当会の海外支援を終了させていただきたい次第です。

本会は、規定にのっとり2014年の3月31日まで、事業を遂行いたします。

その間、個人や団体の長期に渡るご支援を賜れば、喜ばしい限りです。ご配慮のほど、よろしくお願い申し上げます。

ネパールの視覚障がい者を支える会 現地会長からのお願い

最近、大学生の教材用のCDを作成する団体が、カトマンドゥ盆地内に出来ましたが、利用料が高く、また、内容が限られています。私たちのネパールの視覚障害者を支える会は、数年に亘りカトマンドゥなどの都会に限らず、様々な地方の視覚障がい者に喜ばれていただけるよう、広い視野をもってこの団体を運営してきました。また、点字紙タッチによる様々な情報の供給や、視覚障がい者が自立で

きるよう「生活自立訓練」などもネパール国内で幅広く展開してきました。震災のニュースから、私たちは、日本が未曾有の試練を経験されていることも存じておりますが、政府機関から何らの援助も受けられない私たちの運営管理など後援して下さる方がいらっしゃるならば、幸甚と存じます。よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

ビソ・アディカリ

3月の定例活動報告

オーディオライブラリ事業

今月も成人及び大学生向け教科書の音訳をしました。むろん同時に小説の編集も行っていますが、このところ、小説より教科書の音声訳のほうが多いようです。小説離れは全世界的なようで、ネパールも同じような傾向が見られます。私の個人的意見だと暇なときぐらい小説やエッセイなどを、じっくり味わってもらいたいのですが、やはり情報の収集のほうが大切と考える若人のほうが多いようです。

ちなみに音訳とは、印刷された文字を声に出して読み音声化する事を言います。ネパールには自動音声化するような機械がありません。そこで、1冊ずつ読んで、コンピュータにダウンロードします。

点字情報誌タッチ

ネパール唯一の点字情報誌タッチ 30号の作成

こちらやや不調です。このタッチの内容は、視覚障がい者のムーブメントに加え、政府機関のお知らせや、一般的なニュースが中心です。読者はやや年配の方が多く、若い人々にはちょっとマンネリ、退屈と意見を受けることがあります。内容をもっと垢抜けたものにしたほうが良いかも知れません。

4月の定例活動報告

オーディオライブラリ事業

NBSA で一番人気のある事業です。公務員試験や、学校の試験のための攻略本を求めてくる人が多いのですが、利用者が一番好きなのはネパール語の現代小説。特に恋愛小説です。音訳をしてくれるボランティアさんが、ちょっと恥ずかしいと言うほどエッチなものもあるのですが、リクエストがあればNBSA は読みます。CD 枚が 30 円では安すぎるかな？

点字情報誌タッチ

このところペースが上がっています。私たちは毎年6刊の発行を目指していますが、未だに達成できず。点字タイピストが現在ひとり、校正者ひとりと大変に手間隙のかかる仕事です、点字離れが進んでいますが、それでも私たちは今年も6刊の発行を目指しています。NBSA の役員全員が、ボランティアのリーダー、ニルマル君の努力に大いに期待しています。内容の質も上がってきて、老若男女みんなが楽しめるタッチになるのが私たちの目標です。

5月の定例活動報告

オーディオライブラリ事業

公務員試験や学校の試験のための攻略本は、大学生にとっても重宝がられています。音質も録音も良いと評判のよい事業で、利用者がもっと増えそうです。また、NBSA は質の良い CD を安価で提供している団体と評価されています。

点字情報誌タッチ

世界的に点字離れが進む傾向にあるなか、NBSA はこつこつと点字情報誌の作成と配布を続けています。ちょっと遅れ気味ですが、現在タッチ 34 号の作成中です。

6月の定例活動報告

オーディオライブラリ事業。トーキングの作成。

点字マガジンの作成続行など。前月同様です。

その他:役員会及び、元ネパール全国障がい者連盟会長、並びにネパール盲人連盟代表を交えて懇親会開催。今後の活動プランや、次年度の財政などについて話し合いました。



ネパールとの出会い 読者の投稿

私はネパールへ3度渡航した経験があります。ただ、最後が確か1993年の事ですから、もう20年も前まえのことになり、今とは状況がまったく違っていたと思います。もちろん、王様がいましたし、クマリさんの存在に驚いたことを覚えています。最初の渡航は、女性5名による個人旅行に近いものであり、トリスリ川でのラフティングを体験し、2日目までは下痢と嘔吐に悩まされながらも、現地の日本人たちと親しく交流しました。

2度目と3度目の渡航は、いずれも東京ヘレンケラー協会の海外援護事業の関連で企画されたスタディーツアーで、観光に加えて、ネパール盲人協会と盲学校を訪問し、僅かですが携帯用点字器と専用のルーズリーフを届けました。

そのときの観光は、2度ともトリスリ川沿いの7～8時間に渡るトレッキングで、キャンプファイアーを囲んでスタッフが作ってくれたネパール料理を食べ、寝袋に入って眠りました。就寝の際には靴を頭の近くに置くよう注意を受けたのですが、テントの足元に置いたところ、私の同行者を含めて3名が靴を盗まれてしまいました。旅行保険でカバーされたとはいえ、スリッパを履いて帰ることになり、気の毒でした。

このようなことがあったにもかかわらず、私のネパールに対する印象は決して悪いものではなく、むしろ親しみさえ感じています。ネパールのカレー料理は特に好きで、日本でも専門店へ出かけることがあります。そしてできることならば、当時お世話スタッフや、交流した現地の視覚障害をもつ人々に再会したいと思います。

ご投稿頂いたのは千葉県在住の高橋さんです。どうもありがとうございました。

写真左上は、珍しい桃色の石南花。シャクナゲはネパールの国花です。

「ネパールで嫁として暮らしてみても... ネパ在住の日本女性Y.kさんからご投稿頂きました。」

ネパールに根を下ろして13年。その3年くらい前からネパールに在住でここでの暮らし、宗教や文化などについてはだいたいわかっていたが、実際に嫁として住んでみて感じた事を少し述べてみたい。

カトマンズのような都会は別として、主人の実家のあるタナフ郡の山間部の小さな農村では、核家族は少なく、家父長制がまだ健在である。嫁さんが来ると、それまでの嫁は姑となり、俄然権力を発揮しだす。農家の嫁は、一日中休む暇もなく農作業、家畜の世話、草刈、家事、水汲みに従事する。日本の昔の暮らしがそうであったように、田畑の作業ではほとんど動力機械を使わず、牛を使って耕し、人の手で田植えをし、稲を刈る。メインである稲作は温暖なので2期作を取り入れており、その他にもトウモロコシ、イモ類、豆類、野菜が山の斜面の段々畑に作られている。そこを登ったり下りたりするだけでもくたびれるのに、飲み水の入った20kgぐらいある「ガグリ」という金属製の容器を腰骨にのっけて水場を往復している。

当然、私にはそういった農家の労働はすべて無理、主人の実家に行くともっぱら炊事と皿洗いぐらいしか役目がない。煙突のない台所の土間に作られた「いろり」での調理は火加減をまきの量で調節するので難しいし、もうもうたる煙で目が痛くてたまらない。でも台所仕事は、炎天下での畑仕事や草刈りなどに比べるとずっと楽なのだ。兄嫁達を見ていると、よくああいう重労働をこなせるものだと感心してしまう。役立たずの嫁でごめん、と心の中でいつも思っ

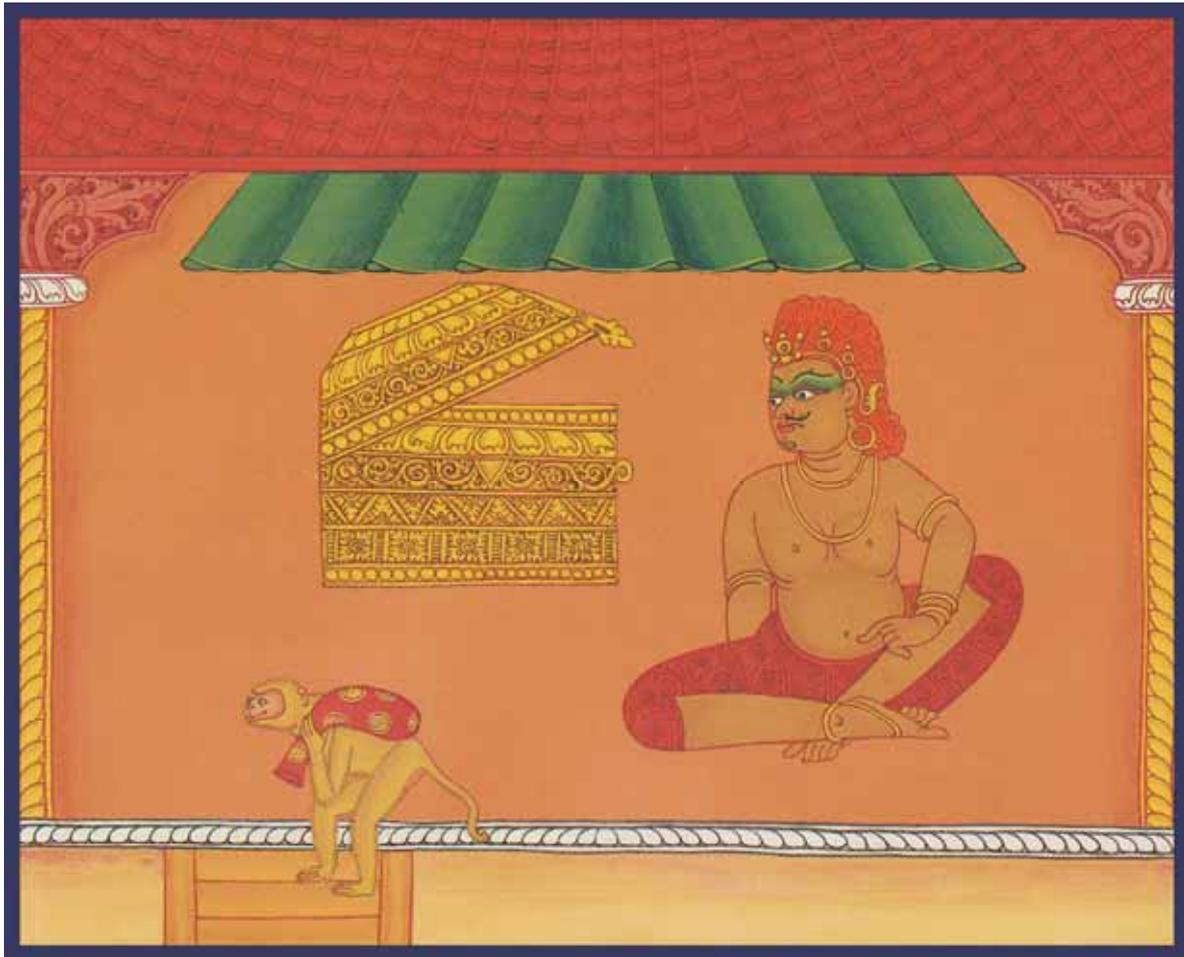
てはいるのだが、日本でも田舎のほうの出身の私ですら、主人の実家での暮らしは、いわゆる原始的でタフなものに感じられた。しかし、私が結婚してから、一番違和感を覚えたのは、実は別のところにあった。私は夫の

家族から、日本の親がつけてくれた名前と呼ばれたことがないのである。

両親、兄達、兄嫁達はみんな私を「カンチ」と呼ぶ。これは末の息子である「カンチャ」の女性形。ちなみにうちの主人は、3人の兄とひとりの姉を持つ末っ子。なので夫は「カンチャ」、私は「カンチ」と呼ばれている。夫と私だけではなく、長兄は「ジェット」、その嫁は「ジェティ」、2番目の兄は「マイラ」、その嫁は「マイリ」、3番目は「サイラ」、嫁は「サイリ」、と言う具合である。私は主人の兄や兄嫁達の名前を、未だに知らない。最初、自分の名前「ようこ」は、ネパール人にとって発音しにくいと聞いていたので、最初は単に呼びにくいからだと思っていた。でもそうではなかったのだ。家族の間では普通名前呼びあわないのだ、という事を、何度か夫の実家へ行くうち、やがて知るに至った。

はじめ私は名前呼んでくれない事に対し、とても不満であった。名前はその人の、人物を象徴し、名前呼ばれることイコール「自分」を、個として尊重してくれている、というような気がしていたのだ。なので、名前呼ばれないのは、私を私として本当に認めてもらっているのだろうか？という疑問が沸いてくるのを抑え切れなかった。主人に言うと、「なんでそんな事が気になるのか？」という顔をされ、「カンチって呼ぶのはね、みんなお前のことを、末弟の嫁として可愛がってくれているからなんだよ」と言われた。

9年前に舅が、5年前に姑が亡くなり、夫の兄の子供たちも、進学や結婚で家を離れて行った。かつては10人いた家に、今では2番目と3番目の兄嫁2人だけになり、実家はめっきり寂しくなってしまった。「カンチ～！」と声をはりあげて私を呼んでくれた、姑の今となってはとてもなつかしい。



ネパールのおもなお祭り 2013年6月末日～9月15日まで

6月29日：田植え祭り。おいしいお米が食べられるよう祈りましょう。

7月3日 グル：プルマ。学校の先生をたたえる日で。教員はお休みになります。

7月24日 ナーグパンチャミ。蛇の神様、今年も豊作になりますようにとお祈りします。

8月21日（水）：ジャナイ・プルニマ 高位カーストのブラマンとチェトリが健康を祈ります。

8月22日： ガイ・ジャトラ 「牛祭り」この日は誰もが無礼講。乞食が王様に化身したり、男性同士が結婚したり。NBSA では、大物まねまね大会を開催します。入場無料、ぜひ見に来てください。

8月17日（金）：父の日 普段影の薄いお父さんも、この日は誰からも尊敬されご馳走されます。

8月28日（水）クリシュナ・アスタミー（クリシュナ神の誕生日）インド神話に登場する神様の

中でも飛び切りハンサム。そして悪魔を退治する好漢。さらに有名な愛人ラーダーとの恋については、詩集もある。音楽のセンスがあるのだろうか、カトマンドゥウのタメル地区のポスター売り場などに必ず置かれている。横笛を吹いている姿で誰が、クリシュナ神とわかりますよ。

9月8日（日）：ティージ「女性の日」女性を敬う日ではなく。女性が夫や男性の親族の長寿を

9月15日（日） こどもの日。NBS 恒例の学校対抗クイズ大会を開催します。ぜひご来場ください。

独りで、お寂しくなかったですか？ 河口慧海さん

ネパール好きな人、そして少々ご年配の方なら、一度はお耳にしたと思われます。遠い昔、単身でチベットに渡ったお坊様の河口慧海(かわぐち えかい)の名前を。生まれは慶応2年(西暦1866年)、仏教学者にして、たいへんなアドベンチャーだった方です。当時チベットは鎖国状態で、入国を何度も拒まれ慧海は最終的にネパールを経由してダライ ラマがおわす国に入られました。無論日本人で初めての入国。慧海様の足跡を辿ってみると、その行動範囲の広さ+バイタリティーに驚かされます。彼は、まさにお坊様と言うより、ひとりの冒険家と言えましょう。

1897年彼は単独で神戸港を旅立ち、シンガポール経由で英領インドのカルカッタへ向かう。ダーズリンで1年間チベット語を学び、チベット入りを目指したものの、当時鎖国状態だったチベットへは容易に入国できなかった。入国のルートを経度も変更し、最終的にネパール経由で仏様の聖地、チベットのラサに行くことを決意。

ネパールの首都カトマンドゥから西北のムスタンに向けて北上。河口慧海師匠がたどり着いたところは、素朴なチベット仏教を信仰する人々が住むマルファの里。聞くところによると、師はマルファの村人と共に仏教の教えを奉じ、その傍ら今でいうならトレッキングを楽しみ、聖なる山カイルスに詣でるむなど、積極的で明るい性格だったそう。日本を離れて20と数年。仰ぎ見れば、神々しい山々。青く光る月の陰影。たった一人になった夜など、慧海は月に向かって呼びかける。

「神の座におわす仏様は、なぜ私に答えをくれなかったのでしょうか…」と。



河口慧海が滞在した民家が博物館になっている(マルファ)。昔から荷を担ぐウマが行き来していたそう。



修行に励む若いお坊さんたち。そして遠景にポタラ宮を望む。慧海さんはさぞや咽び泣いたことだろう。

ネパールの視覚障害者を支える会、日本の事務局からのお知らせ

総会(書面)で2014年3月末をもって日本のNBSAを閉会することを決議いたしました。会費は今年度分まで納めて頂くと助かります。事務局は来年の3月31日まで運営いたしますので、恐縮ですがここに振込み用紙を同封させていただきますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。また、閉会時に会の運営費に僅かでも残額があれば、全て現地ネパールのNBSAに全額寄付することに賛同願えれば幸いと存じます。

しかしながら、来年3月にカトマンドウのNBSA事務所を全面的に閉鎖するのあまり惜しい、「せめて後方支援だけでも」とおっしゃる方もいらっしゃいます。どなたか立候補される方はいらっしゃいませんか。もしくは、海外の盲人協会などご紹介くださってもありがたい限りです。ご検討の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局だより

ネパールの視覚障がい者を支える会の事務局が柏市に移って2年目になりました。これまではバザーやお祭りの時にネパール製品を販売し、ネパールの視覚障がい者を支える会の運営資金をカンパしてきましたが、これからポコアポコの工房にもネパール製品を置くことにしました。

ヒマラヤ山脈原産の「岩塩」とても美味しいと評判です。ぜひ一度ご賞味ください。

千葉県柏市 松葉町 6-8- ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

Nepal, Nepal, Blind, Support Association(NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-444-6234

日本の窓口:千葉県柏市 松葉町 6-8-1 ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

NBSA:HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp>

維持会費:個人会員年間 6,000 円、協力会員年間 3,000 円/法人会員年間 15,000 円

振込先:口座記号番号振込み番号0190-7-762775(ネパールの視覚障害者を支える会)

ネットニュースのご紹介、

毎月1回配信のNBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュース政治状況を掲載しています。ネパールへの渡航状況を知る上で便利。

ホームページ、NBSA:<http://NBSA.sakura.ne.jp/> をご覧ください。

毎月の配信をご希望の方は直接 nbsa@mail.com.np にお申し込みください。